

育児語の特徴 と 授業で語りかける“教師語” teacher talk の留意点

久埜 百合（中部学院大学）

育児語の特徴	授業者が語りかける“教師語” teacher talk の特徴
語りかけの声の抑揚 語りかける音の流れの ピッチとリズム ※赤ちゃんが初期に身に つけるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・話と練習との音調の違い ・コトバを使い合う ・教えるために英語を聞かせるのではなく、英語で情報を交換するために指導者が語りかける ・教えようとする英語の音調と、語りかける英語の音調には、明らかな違いがある
明快な発音	<ul style="list-style-type: none"> ・教えている外国語の独特の発音を聞かせる機会を多くする ・相手に意味が伝わるような平常より高いピッチ ・いくらか誇張されたイントネーション ※極端に誇張されたイントネーションは、子どもが見破る ・ゆっくりした話し方 ※機能語も内容語もすべてを切り離して話すことではない
使用語彙	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えようとする意味を実物や realia で具体的に示して、使用頻度の高い単語を選んで表現する ・極力簡単に、直截に表現できる短い単語を選ぶ ・子どもが既に使っている外来語（英語には多い）を選択する
文の構造	<ul style="list-style-type: none"> ・シンプルな単文を使い、何度も言い添える ・導入期には、1回の授業で教師と子どもが使い合う文型は似たものにする ・使い合う文の語数を揃えて、ストレスが自然にリズムを作り出せるようにする
文法的な正確さ	<ul style="list-style-type: none"> ・文法上の誤りは極力避ける ・母語とは異なる英文の語順を音声のみの段階で気づかせる ・正しい語順で決まるストレスの位置が作り出す音の流れとリズムを感じ取らせる ・冠詞や語尾変化などの脱落・誤用は、音の流れとリズムを狂わす
繰り返しが多い 日常的に反復して 行わる行動	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ文型で、同じジャンルの内容語を使い、意味を変えながら繰り返す substitution drill に似た活動 ・子どもにも表現内容を考えさせて発話を促す
似た場面での繰り返し	<ul style="list-style-type: none"> ・経験させている表現を、時期をずらしてリサイクルする ・スパイラルな授業計画 ・複数学年をまたいだカリキュラムの編成
話題の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前にあるもの ・教具の精選 realia の活用
直近の経験	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが日常生活で経験するもの ・子どもが本気で考えているもの
子どもとのやり取り 子どもの応答を認める 励まし・成功体験	<ul style="list-style-type: none"> ・動作も交えて、子どもを情報伝達の活動に巻き込む ・簡単な Q&A から始める ・子どもとインタラクティブに話を進める ・子どもに言語使用を経験させながら話を進める ・子どもと英語でやり取りをしながら、子どもたちの未熟な英語を受け止めつつ、そっと言い直して、正しく情報を伝えられるように正確な表現を聞かせる

※「ぼーぐなん広場 No.91」も併せて、お読みください。 [こちら](#)